

令和5年度環境保全報告書

生活協同組合コープこうべ

① 環境保全報告書の記載範囲

生活協同組合コープこうべは、兵庫県下で事業を行っている組織であり、環境の重点取組目標・計画は全体で策定しております。そのため、以下の記載内容はコープこうべ全体の実績の報告となります。

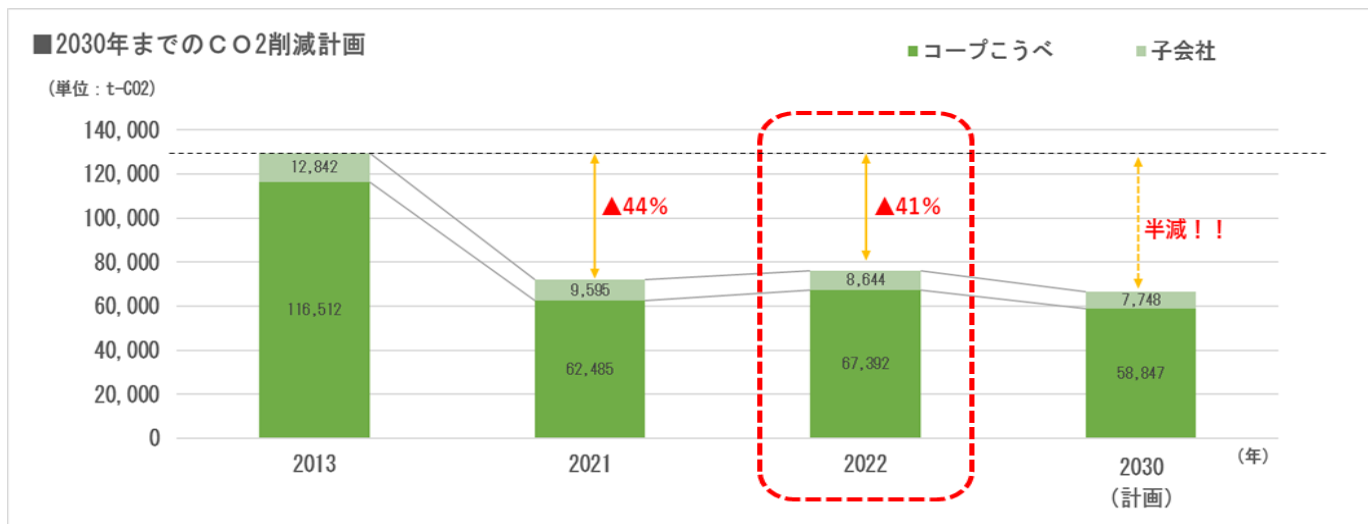
② 当該年度の重点取組目標・計画の実施状況

ア. チャレンジ1「CO2排出量を半減！」（基準年：2013年度 政府目標の基準年と同一）

エネルギー使用量の削減や再エネ 100%事業所の展開など、「量の削減」・「質の改善」両面の取り組みにより、排出量（2022年度※1）は基準年比 59%（▲41%）、前年差+3%と横ばい※2。

※1 CO2排出量は最新の2022年度確定値を記載（2023年度実績は2024年11月頃に確定予定）

※2 2021年度に拡大した再エネ 100%（CO2排出係数「ゼロ」）事業所の最小化により電気由来の排出量は増加したが、ガソリンや都市ガスの使用量減少により、総排出量は横ばい。



	2023 計画	2023 実績	評価
1	「再エネ 100%事業所」はスタート時の8事業所を継続【質の改善】	「再エネ 100%事業所」はスタート時の8事業所を維持し、CO ₂ 排出量の削減に寄与。	○
2	自家発電・自家消費施設が新たに稼働開始【量の削減・質の改善】	KC 姫路については、半導体不足の影響による部材の調達難により稼働が遅延していたが、稼働後、順調に推移。	○
3	「省エネチューニング※」一部店舗の契約期間満了後における省エネ施策の継続【量の削減】 ※専門業者による冷蔵冷凍機器・空調の運用調整により省エネ効率を改善させる施策。	コープ店（コープミニを除く）で「省エネチューニング」施策を継続し、エネルギー使用量・CO ₂ 削減を推進。5月末で同施策の契約満了を迎えた一部店舗については、省エネ設備を残置。設備保守等は引き続き別会社に委託し、省エネに注力。	○
4	宅配コストマネジメントによる配送効率の向上、走行距離・使用燃料の削減	KC 東神戸で訪問コースを最適化するAIシステムを実験的に導入し、ルート見直しにより1コースを削減。次年度以降の本格導入に向け、運用方法などを整備。	○

5	E Vトラックの導入検討・EV車の稼働率向上【量の削減・質の改善】	住吉事務所のリーフ（3台）のリース契約の終了に伴い、航続距離の長い新型のリーフ（2台）に入れ替え、稼働率向上。EVトラックは、引き続き日生協等と連携しながら導入を検討。	△
6	設備更新の際、省エネ設備への切替えを促進（空調7店舗・LED3店舗・冷ケース1店舗を計画）【量の削減】	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機の更新（C 尼崎近松、C 仁川他5か所） ・LED照明に更新（C 茨城白川、C 上郡、C 桃山台他11か所） ・冷ケースの更新（C 福田） 	○

イ. チャレンジ 2「食品廃棄物を半減！」(基準年:2015年度 SDGsの基準年と同一)

店舗の廃棄ロス削減の取り組みが伸展した一方、エコファームの食品残さ回収停止の影響により、基準年比 108.8%と大幅増加(昨年度の基準年比 83.8%から大きく後退)。

	2023 計画	2023 実績	評価
1	C土づくりセンターの老朽化対応として、食品リサイクル・堆肥生産の外部委託化(大栄環境㈱)に向けた準備を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・土づくり C回収停止で廃棄物削減が大きく後退。一方、堆肥生産の外部委託化(大栄環境㈱)の準備が完了。対象店舗(49→59店舗)・対象品目(日配廃棄品)を拡大し、次年度以降の食品リサイクル率の向上につなげる。 	×
2	店舗事業における取り組み内容 ①自動発注ロジックおよび設定値の見直し(日配) ②時間帯別売場基準の見直し、見切基準(鮮度基準)の策定(生鮮・日配)	①自動発注の見直しは通年で実施。 ②生産部便の納品時間変更に伴い、見切り基準を店舗運営部から発信するなどの対応を強化。 ③①②等の取り組みにより、生鮮・日配の廃棄ロス金額は前年比 97.7%、金額にして約 103,660千円の削減を実現。 ④エコファームで回収できない遠隔地の店舗の削減モデルとして、追加施策を活用しCD豊岡に「消滅型生ゴミ処理機」を導入。同店舗の食品廃棄物の約8割が処理可能であり、年間約30tの食品廃棄物を削減予定。	○

ウ. チャレンジ 3「プラスチック使用量を 25%削減！」(基準年:2017年度)

取り組み強化により、基準年(2017年)比 89.4%に削減。

	2023 計画	2023 実績	評価
1	畜産ノントレイ商品の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度より企画連動での対応を図り販促を強化。2023年度は前年度の伸長もあり前年比の伸びは鈍化するが、客数前年比を上回るなど認知度は向上。 	○
2	「マイバッグ運動 NEXT」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報、レンタルバック・シェアバッグの取り組みを推進し、マイバッグ持参率はほぼ横ばいの 90.5%(前年差▲0.1%)。 	△

エ. チャレンジ 4「エシカルな商品やサービスの開発・供給推進！」

エシカルな商品や「コープでんき」の普及・拡大、脱プラ施策の強化等を実施。

	2023 計画	2023 実績	評価
1	6月と10月の環境・エシカル強化月間を中心にエシカルな商品の企画・供給促進	<ul style="list-style-type: none"> 環境・エシカル強化月間を中心に、地産地消や被災地支援、脱プラ等、店舗・宅配・商品政策推進室と連携し、エシカルな商品の企画・供給を実施。 C龍野、CD豊岡にて、地域NPO・地元小・中学校と共同で脱プラ企画「プラエコデー」を継続開催。 	○
2	「コープでんき」理解促進策の実行	<ul style="list-style-type: none"> 「コープでんき」契約組合員（抽選600名）にエコファームのソーラーシェアリングで栽培された野菜のプレゼント企画（抽選）を実施。 コープでんきの調達先として新たに太陽光発電所2か所追加。 固定価格買取制度が終了した組合員宅からの太陽光発電「余剰電力買取サービス」を継続実施（2024年3月末時点130件）。 	○
3	循環型社会の実現に向けた新たな資源の有効活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 寄付機能付きペットボトル減容回収機を新たに3店舗（C苦楽園、C龍野、C箕面中央）に設置。集めた寄付金を地域団体へ贈呈（199,397円）。 神戸市等と協働で進める、「使用済みつめかえパック」の回収・リサイクルの取り組みについて、CD神戸北町にて普及・啓発イベントを開催し、約300名が参加。 海洋プラスチック買い物かごをC立花に設置。 	○
4	羽毛の回収・リサイクルについて、店舗での実施継続および宅配での試験導入に着手	<ul style="list-style-type: none"> 29店舗にて羽毛を回収、3,315枚（前年比95.7%）と前年減。 宅配での試験導入については未着手。 	×

オ. チャレンジ5「組合員とともにエシカル消費・活動を拡大！」

コロナ第5類への移行後、リアル・オンライン等を併用し、エシカル消費・活動を展開。

	2023 計画	2023 実績	評価
1	エシカル・SDGsに関する学習会・記念イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> 「やるもん出前講座」等の講師として学習会を開催：延べ575人/26回（SDGs：149人/5回、プラスチック：64人/4回、食品ロス：267人/13回、エネルギー：67人/2回）。 鳴尾浜&玉津リサイクルセンター見学会（161人/6回）を開催（オンライン見学会含む）。 西神中学校と連携したモデル授業「エシカルDAY」（1年生3クラス120名）開催。 雑誌『FRaU』の兵庫県版SDGs特集号にエコファームの記事を掲載。食品ロス削減の取り組みを紹介したほか、『きょうどう』で本誌のプレゼント企画を実施（241名の応募）。 	○
2	フードドライブ常時受付、集中受付キャンペーンの展開	全コープ店（CMは除く、CMルナス箕面は実施）でフードドライブの常時受付を継続実施。9月と1月には全店舗・全宅配で集中受付キャンペーンを実施。年間で約54tの食品を回収。	○

3	食品ロス削減の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 消費者庁・環境省が主催する「令和5年度食品ロス削減推進表彰」で環境事務次官賞を受賞。これまで取り組んできた「てまえどり」運動や「フードバンク活動」が高く評価。 C龍野にコンポストを設置し、店舗から出る野菜くずを堆肥化。生産された堆肥は、地域の方々が利用予定。 	○
5	折込チラシによる古紙めーむ・宅配内袋の返却呼びかけ	6月に折込チラシにて古紙めーむ・宅配内袋を呼びかけ、古紙めーむ回収率（59.0% 前年差▲2.3%）、宅配内袋（18.2% 前年比+1.2%）の実績。	△
6	「ラジオ関西」（毎月）でのエコの取り組みの発信（初の通年企画）	「コープエコのはなし」と題したラジオ番組を企画し、毎月テーマ設定し時節に沿った情報を発信。	○
7	『コミュニケーションレポート』を活用した情報発信	「ターゲット2030」における「環境」ページにて、SDGsや環境の取り組みを紹介。	○

③ 食品工場における公害防止対策に係る報告

ア. 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目 標 項 目		目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
防大 止気 対汚 策染	ばい煙の排出規制の遵守	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。 (測定結果は別途報告)	◆ばい煙発生施設の適正な維持管理に努めるとともに、年2回のばい煙測定を実施し、目標値の遵守状況を確認した。
(公共下水道を使用する場合)			
防水 止質 対汚 策濁	排除基準の遵守	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。 (測定結果は別途報告)	◆排水処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、月2回の放流水水質検査により目標値の遵守状況を確認した。
	雨水への油漏洩防止対策	雨水への油漏洩防止	◆手順書作成及び教育実施
悪臭 防止 対策	法令等の基準の遵守	特に異臭が発生することはなかった。	◆排水処理設備脱臭装置活性炭交換
対土 策壤 汚 染	土壌汚染の未然防止	油、薬品等の土壌への流出はなかった。	◆手順書作成及び教育実施
産業 廃 棄 物 対 策	法令等の規制を遵守	◆ 法令等に定める産業廃棄物管理票(マニフェスト)制度、廃棄物の保管・処理基準を遵守し、法定の記録・報告を実施した。	
	廃棄物の発生抑制・再利用	◆産業廃棄物の再生利用、再資源化等の有効利用及び減量化に関する処理計画を策定し、必要に応じ市へ報告を行った。 ◆工程の見直しを行い、廃棄物の発生抑制・再利用を積極的に実施した。	
P R T R 法	特定化学物質の排出量及び移動量の報告	◆P R T R法に基づく第一種指定化学物質(塩化第二鉄)の排出量及び移動量の届出・報告実施。	

イ. ばい煙発生施設のばい煙測定結果

施設名	硫黄 酸化物	ばいじん [mg/m ³ N]	窒素酸化物 [ppm]平均値
No.5 ガスエンジン 400 k w ヤンマー E P 400	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0050	115
No.6 ガスエンジン 400 k w ヤンマー E P 400	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0046	112.5
No.7 ガスエンジン 815 k w 三菱重工 S G P 815	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0065	285
コガタカンリュウボイラー ミウラ A I -1000H	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0057	36
1-A コガタボイラーミウ ラ S Q -2000 Z S	K 値 1.17 以下 総量規制	廃止	廃止
1-B コガタボイラーミウ ラ S Q -2000 Z S	K 値 1.17 以下 総量規制	廃止	廃止
1-C コガタボイラーミウ ラ S Q -2000 Z S	K 値 1.17 以下 総量規制	廃止	廃止
1号コガタボイラーミウラ S Q -3000 A S	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0065	25
2号コガタボイラーミウラ S Q -3000 A S	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0079	24.5
3号コガタボイラーミウラ S Q -3000 A S	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0049	27
4号コガタボイラーミウラ S Q -2000 A S	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0043	31
5号コガタボイラーミウラ S Q -2000 A S	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0044	33
58-Z 01-A シグマ T U G 360 A N 9 C	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0085	32
58-Z 01-B エフィシオ N H G 3 6 0 A N 9 A	K 値 1.17 以下 総量規制	0.0058	20

ウ. 排出水の汚濁状態測定結果

放流水水質測定結果									
項目	項目		管理目標値	測定値		全測定回数	目標した測定回数を超え回数	目標値達成判定	法令基準達成判定
				最大 (pHのみ 最小~最大)	平均				
法令排水基準設定	1	水素イオン濃度 (pH)	5.0~9.0	6.0~7.5	6.8	24	0	○	○
	2	生物化学的酸素要求量 (BOD)	2000 以下	2	1	24	0	○	○
	3	浮遊物質量 (SS)	2000 以下	12	6.6	24	0	○	○
	4	ノルマルヘキサ ン油類	150 以下	150 以下	0.4	0.1	24	0	○

単位は pH を除き、mg/ℓ ○ 達成 × 未達

以上